

肝細胞がんと薬物治療



薬剤部

本日の内容

肝細胞がんに対する薬物治療について

(1) 肝動脈化学塞栓療法 (TACE)

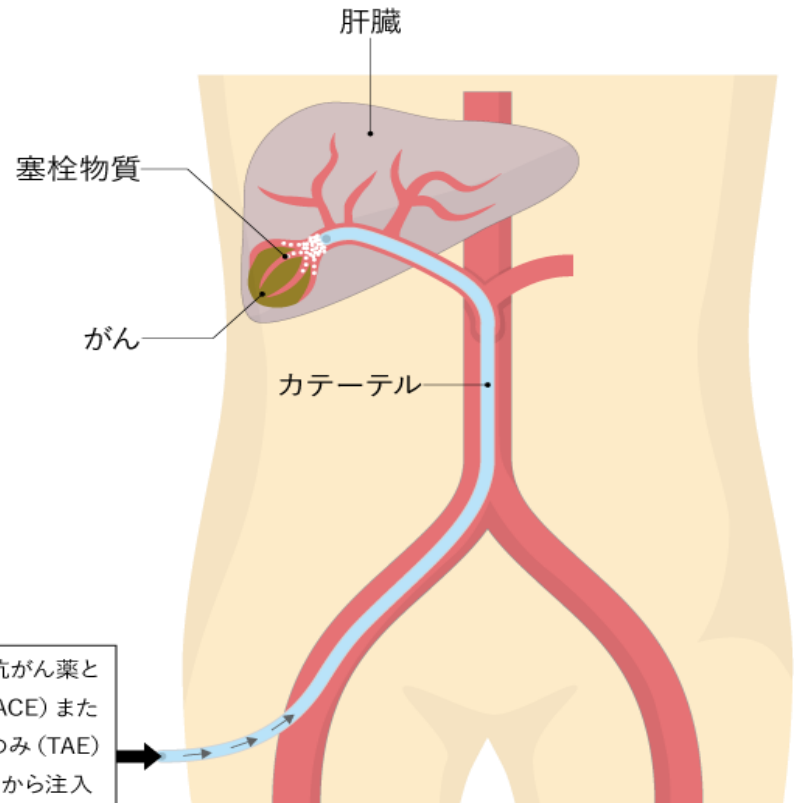
(2) 分子標的治療薬

(1) 肝動脈化学塞栓療法 (TACE)

カテーテルを入れ、細胞障害性抗がん剤・造影剤・塞栓物質を混ぜて注入し、肝動脈を塞栓することでがん細胞への栄養を止める治療法

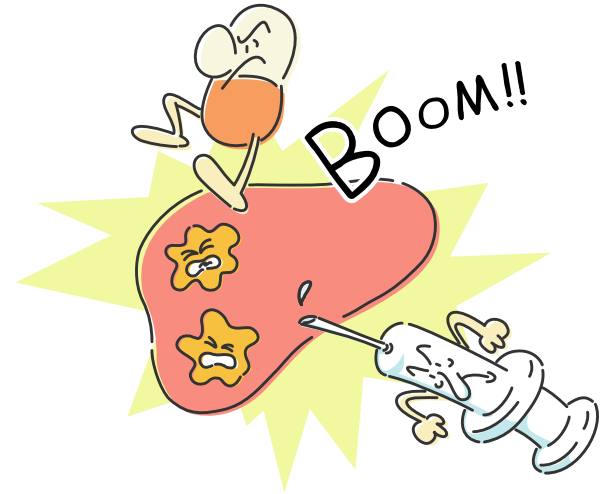
抗がん剤として使う薬

- ・エピルビシン
- ・アイエーコール®



<副作用>

- 発熱
- 嘔吐
- 食欲不振
- 肝機能の低下



など

(2) 分子標的治療薬

がんの増殖に関係する特定の分子(タンパク質)を
狙い撃ちして効果を発揮する薬



<飲み薬>

商品名(一般名)

- ①レンビマ[®] (レンバチニブ)カプセル
- ②ネクサバル[®] (ソラフェニブ)錠
- ③スチバーガ[®] (レゴラフェニブ)錠
- ④カボメティクス[®] (カボザンチニブ)錠

<注射薬>

- ⑤テセントリク[®] (アテゾリズマブ) と
アバスチン[®] (ベバシズマブ)併用療法
- ⑥サイラムザ[®] (ラムシルマブ)単独療法

①レンビマ[®]（レンバチニブ）カプセル



<用法・用量>

体重60kg以上：1回12mg（3カプセル） 1日1回服用

体重60kg未満：1回8mg（2カプセル） 1日1回服用

<注意点>

血圧の上昇がみられることがあるので、定期的に
血圧測定を行うこと。

②ネクサバール® (ソラフェニブ)錠

<用法・用量>

1回400mg(2錠) 1日2回服用



<注意点>

高脂肪食は、効果を弱めることがあるため、**食事の
1時間前～食後2時間までの間は薬の服用は避ける**

③ スチバーガ® (レゴラフェニブ) 錠

<用法・用量>



通常、1日1回160mg(4錠)を食後に服用。

3週間連日服用後、1週間休薬する。

これを1サイクルとして投与を繰り返す。

<注意点>

空腹時及び高脂肪食後の服用は避ける。

④カボメティクス®（カボザンチニブ）錠

<用法・用量>

1回60mg（1錠） 1日1回**空腹時**服用



<注意点>

食後に服用すると副作用が起こりやすくなるため、

食事の1時間前～食後2時間までの間は薬の服用は

避ける

高脂肪食とは？

脂肪分が多く高エネルギーな食物のこと
約900～1000kcal(脂肪含有量50～60%)

高脂肪食の例		
 <p>BLT(ベーコン&レタス&トマト) サンドイッチのセット</p> <ul style="list-style-type: none">●1086kcal●脂質=66.0g●脂肪含有率:54.7%	 <p>てりやきバーガーと フライドポテト(M)</p> <ul style="list-style-type: none">●957kcal●脂質=60.1g●脂肪含有率:56.5%	 <p>デニッシュ(大)とトースト (ジャム&マーガリン)</p> <ul style="list-style-type: none">●1027kcal●脂質=56.5g●脂肪含有率:49.5%
 <p>ハンバーグと オムライスのセット</p> <ul style="list-style-type: none">●918kcal●脂質=51.7g●脂肪含有率:50.7%	 <p>海の幸ペロンチーノと クリームスープパイ包み焼き</p> <ul style="list-style-type: none">●921kcal●脂質=55.8g●脂肪含有率:54.5%	 <p>鳥の唐揚げ、子持ちシシャモ、 だし巻き卵</p> <ul style="list-style-type: none">●938kcal●脂質=59.4g●脂肪含有率:57.0%

内服薬で起こりやすい副作用

①皮膚症状：**手足症候群**、発疹、脱毛

②高血圧

③消化器症状：下痢、食欲不振

④疲労感

⑤出血：血便、血痰、鼻血、爪の中の出血

⑥蛋白尿



手足症候群の症状と重症度

Grade1	疼痛を伴わない皮膚の変化、皮膚炎(紅斑、浮腫など)
Grade2	疼痛を伴う皮膚の変化(水疱、出血、亀裂など)
Grade3	疼痛を伴う高度の皮膚の変化(水疱、出血、亀裂など) 身の回りの生活の動作が制限される



紅斑と過角化が目立ち、亀裂を生じている。暗褐色調の色素沈着も伴う。疼痛があるが日常生活に支障はなし。(Grade2)



手掌の発赤増強と過角化、落屑を認め、激しい疼痛と関節の曲げにくさ、箸が持てない、字が書きづらい、水を使えないなど日常生活が障害された。(Grade3)



足底(土踏まず部以外の部位)に高度な紅斑がみられ、過角化と落屑、(水疱が破れて乾固した)痂皮を伴う。疼痛のため歩行が困難。(Grade3)

手足症候群予防のための対処法

(1) 皮膚の乾燥を防止

- ・保湿クリーム of 塗布
- ・就寝時は木綿の手袋や靴下を着用

(2) 皮膚に強い刺激を与えることは避ける

- ・熱いお湯での洗い物や入浴
- ・窮屈な靴や身体を圧迫するような衣服の着用

(3) 2次感染予防

- ・手足の消毒などで清潔を心がける

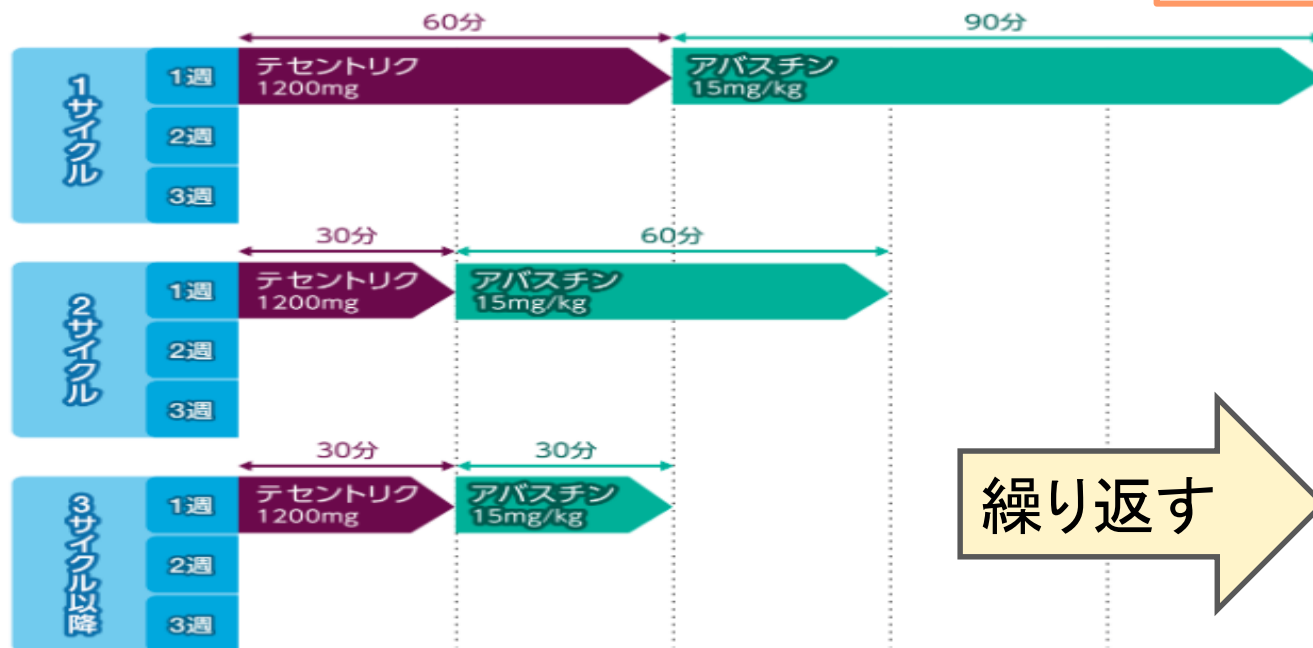
(4) 直射日光を避ける



⑤テセントリク® (アテゾリズマブ)と アバスチン® (ベバシズマブ)併用療法

<投与スケジュール>

2週間ごとに繰り返す



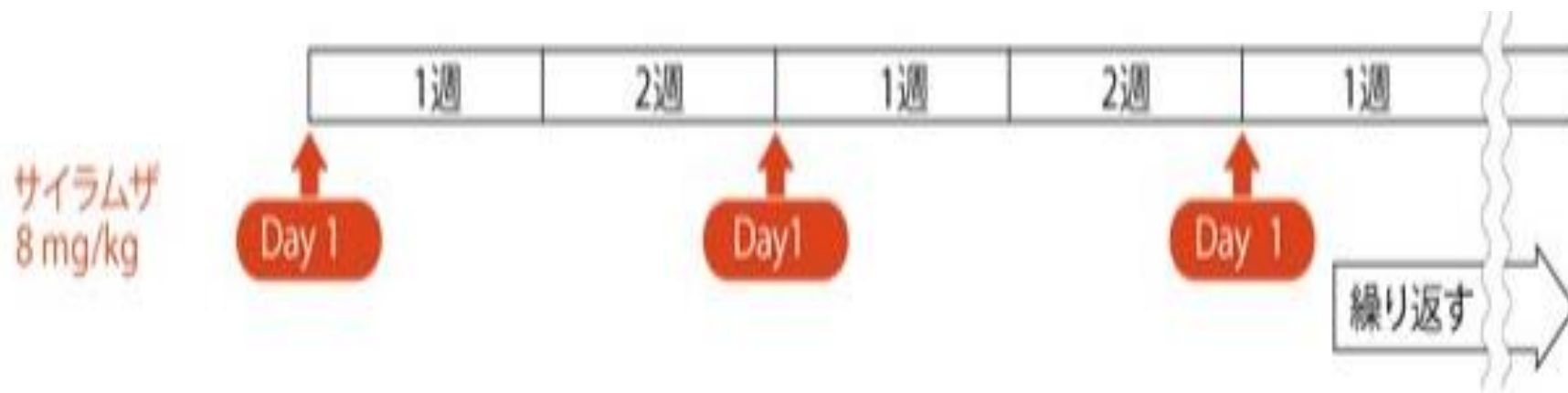
<注意点>

初めて投与する際は、過敏症状(蕁麻疹や息苦しいなど)が現れることがあります。

⑥サイラムザ® (ラムシルマブ) 単独療法

<投与スケジュール>

2週間ごとに繰り返す



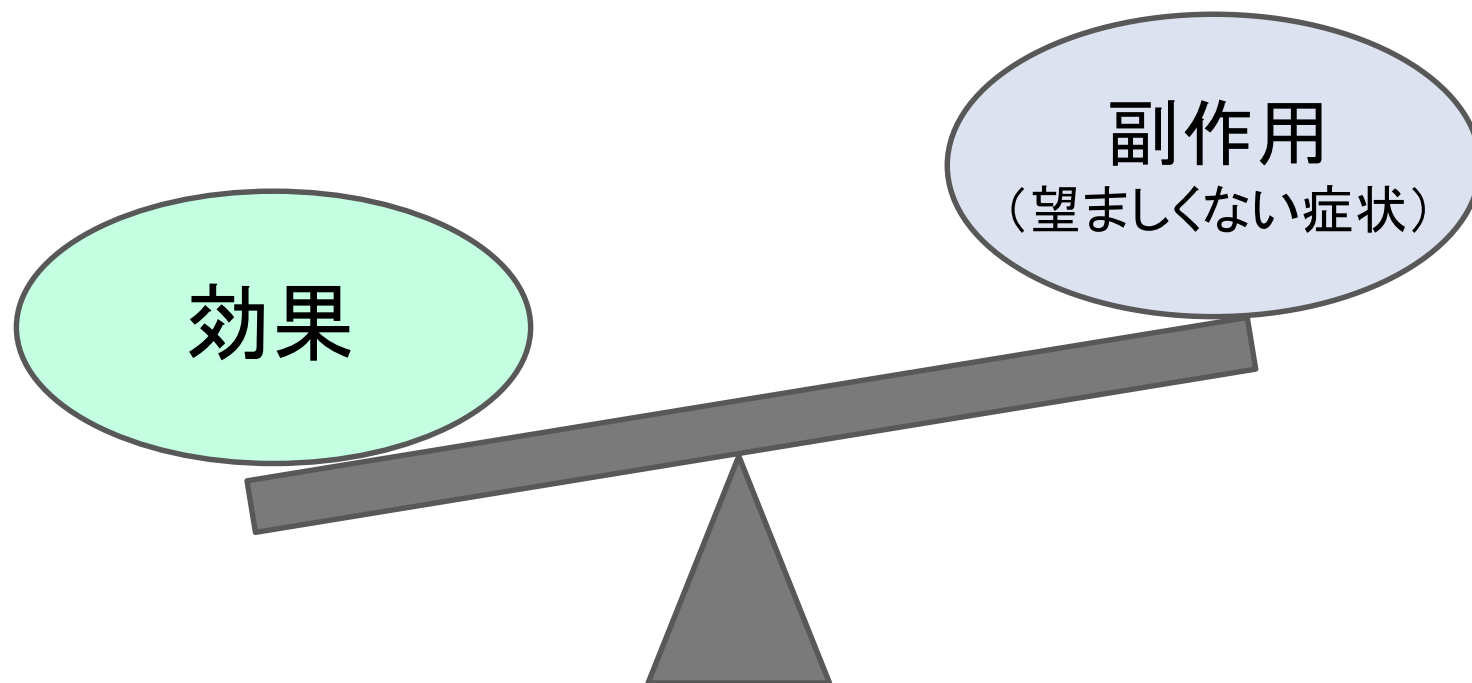
<注意点>

副作用を予防するため、点滴する前に抗アレルギー剤などを投与することがあります。

注射薬で注意が必要な副作用

- ①間質性肺炎
- ②肝機能障害
- ③大腸炎、重度の下痢
- ④出血
- ⑤創傷治癒遅延
- ⑥高血圧
- ⑦蛋白尿

お薬の治療効果を高めるために



- ・使い方や注意点をよく理解しましょう
- ・疑問点や気になることは気軽に相談してください